

こうち+クロス

高知赤十字病院
広報誌

ご自由に
お持ち帰りください



特集:乳癌治療のご案内



高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からぬこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようにお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力ををお願いいたします。

乳癌治療のご案内



乳癌について

年間の乳癌罹患人数は年々増加し、現在9万人を超え、女性の癌罹患人数第1位となっています。日本人女性では約9人に1人が乳癌になるといわれています。

罹患のピークは50代前半～60代前半ですが、20代～90代まで幅広く罹患が見られます。

乳癌の治療

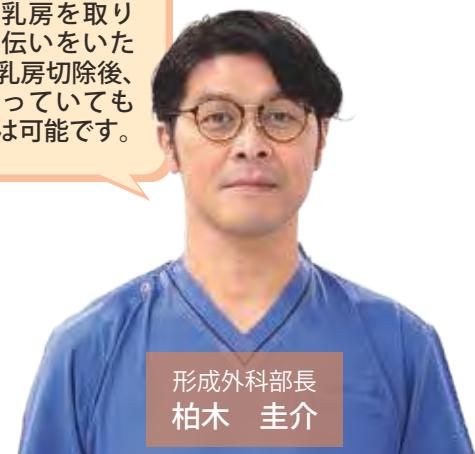
手術・薬物療法(ホルモン治療・抗癌剤治療・分子標的治療・免疫治療等)・放射線治療等があり、治療方法は癌の性質、癌の進行状況および患者さんの希望を踏まえて決定しています。手術が可能な方については手術が基本となります。癌の性質によっては術前や術後に抗癌剤治療を行う場合があります。手術の方法は大きく分けて乳房温存術と乳房切除術があり、当院では乳房切除術の場合の乳房再建も対応しています。

乳房再建も当院で行うことが出来ます！

当院は、日本乳房オンコプラスティックサーチャリー学会乳房再建用エキスパンダー/インプラント実施認定施設であり、2名の専門の医師(外科と形成外科)が常勤しているので、乳房再建を希望される患者さんにも対応可能です。もちろん保険診療で行うことができ、再建方法は自家組織再建とインプラント再建のどちらも選択可能です。また、乳癌との同時手術だけではなく、術後長期経過した患者さんにも対応可能となっておりますので、お気軽にご相談ください。



失われた乳房を取り戻すお手伝いをいたします。乳房切除後、何年も経っていても乳房再建は可能です。



形成外科部長
柏木 圭介

当院の乳腺・内分泌外科の特徴

当院は日本乳癌学会認定施設であり、専門医・指導医が乳癌の診断・治療を行っています。日々の診療では、マンモグラフィ・超音波・CT・MRI・骨シンチ等の機器を用いて癌の広がりの検索を行い、エビデンス(医学的な証拠)に基づいた診断・治療を心がけています。

現在、乳癌の治療は多岐にわたり、とても医師のみで完結できるものではありません。そこで当科はチーム医療を積極的に取り入れ、看護師・薬剤師・リハビリ・ソーシャルワーカー等と早い段階(初診時)から密接に連携し、患者さんと一緒に治療を行っています。外来から入院・手術、そして術後の治療まで切れ目なくチームとして対応させていただき、患者さんの不安や心配をできるだけ少なくできるようになっています。また、がん看護専門看護師も3人在籍しており、外来から入院中まで積極的に介入させていただいている。

術後状態の落ち着いた患者さんは、癌診療連携パスを用いて、地域関連病院と連携しながら治療にあたっており、2つの医療機関で1人の患者さんをフォローしていくという体制を取っています。

がん看護専門看護師

治療が長期にわたる乳がん患者さんの様々な面でのサポートができるように努めています。どんなことでも気軽に相談していただきたいです。



外来看護師

個々のライフサイクルに配慮し、患者さん、御家族の支援を行っていきます。分からないことがあれば、お気軽にお声がけください。



薬剤師

有効性と安全性が確認された薬を、患者さんに合わせた用法・用量にて提供されているか確認しています。また、患者さんが安心して治療を受けていただけるよう、薬の使い方や副作用の対処法について丁寧に説明させていただきます。



社会福祉士

患者さんの抱える様々な問題や生活環境に着目し、患者さん、ご家族に寄り添った支援を行います。



乳癌診療地域連携パスとは

当院では「診療連携手帳」を作成しています。術後患者さんの腫瘍マーカーの測定やホルモン剤の処方などをかかりつけの先生に行っていただき、当院では主に画像検査を行うように役割分担したもので、連携して経過観察を行っていきます。



乳房MRI検診も行っています！

マンモグラフィ検診は痛いから嫌だという方は、無痛の乳房MRI検診を行っています。完全予約制ですが、希望の方は当院健康管理センターまでご連絡ください。



第三外科部長
(乳腺・内分泌外科)
甫喜本 憲弘

このような方はぜひ乳腺・内分泌外科に ご相談・ご紹介ください

健診を受けて要精査となった方、乳房にしこりや乳頭からの分泌物を認める方は気軽にご相談ください。また、開業されている先生で診ている患者さんに上記症状を認める場合は、遠慮なくご紹介ください。



ホームページはこちらから

乳癌卵巣癌症候群とは？

同一家系内に乳癌・卵巣癌(男性であれば膵臓癌や前立腺癌も)を発症した方が複数いる場合、その癌の発症に「遺伝要因」が関与していることがあります。乳癌の方で遺伝子異常があるかないかは保険診療で検査ができますので、家系内に乳癌・卵巣癌の発症が多いと思われる方や検査について話を聞いてみたい方は、お気軽にご相談ください。



～ママの休日～

産後ケアのご案内



当院では、自治体の委託事業として2024年6月より通所型での産後ケア「ママの休日」を開始しました。「ママの休日」の目的は、産後の身体回復と心理的な安定を促進すること。母親自身のセルフケア能力を育み、母子の愛着形成を促すこと。母子とその家族にとって健やかな育児ができるよう専門職として支援することです。

管理栄養士による特別メニューの昼食、おやつ付きです。これまでに合計7組の母子が利用され、「ゆっくり休めた」「母乳育児の確認ができて良かった」「久しぶりにゆっくり美味しい物を食べることができた」と大変好評頂いています。

ママのこころと身体、赤ちゃんのケアのサポートを行うのが産後ケアです。
いつも頑張っているママたち、産後ケアを利用してみませんか。
ママと赤ちゃんたちが笑顔で過ごせるように当院スタッフがサポートさせていただきます。

産後ケアプラン

お好きなプランをお選びください



練習/相談プラン

沐浴、更衣、授乳、げっぷ、
おむつ交換、こより浣腸など
授乳練習、乳房マッサージなど



休息プラン

赤ちゃんをお預かりする時間、
ママは休息していただけます。
※授乳の実施の有無はママと
相談させていただきます。

【対象】産後3か月未満のママと赤ちゃん（当院でのご出産経験の有無に限りません）

* 3~4ヶ月未満の赤ちゃんはご相談ください

【お問い合わせ先】高知赤十字病院：088-822-1201

※代表番号に電話して5階西病棟へ繋いでもらってください。

詳しくは、当院ホームページをご覧ください。



産婦人科医募集

高い安心感と満足度で
生命の誕生をサポート

陣痛から分娩後まで
家族と過ごせるLD室を新設

詳しくは
こちら
→



浸水想定の院内災害対策訓練を行いました

医療事業・広報課 中平 秀行

6月8日(土)院内災害対策訓練を行いました。県の想定する最大クラスの地震では、当院のある場所は津波の浸水が30cmから1mと予測されており、今回の訓練は津波浸水を想定した訓練を行いました。当院では津波浸水対策として土地のかさ上げと防水板を整備しており、今回の訓練では傷病者の受入だけではなく、防水板の設置や、物品の1階から2階への搬送も行いました。また災害時は通信環境が不安定になることを考慮し、電子カルテやインターネットを使用せず、紙伝票運用での対応も行いました。今回の訓練ではコロナ禍では出来なかった、龍馬看護ふくし専門学校、高知県立大学の学生の皆様や近隣の秦地区自主防災組織の方にもご協力をいただき、実りのある訓練となりました。4月には高知県内でも大きな地震がありました。訓練を重ねる度に様々な課題がでてきますが、少しずつでも課題を克服しながら、南海トラフ巨大地震に向けて今後も訓練、研修等積み重ねていきたいと思います。



災害対策本部



緑エリア



防水板の設置



患者搬送

高知県総合防災訓練に参加して

医療情報管理課 岡村 太郎

5月26日(日)高知県総合防災訓練に参加しました。天候は雨が降ることもなく、ずっと曇りで訓練しやすい天候でした。香南市・南国市の医師会から参加されていた地域の先生方と一緒にトリアージエリアを担当しましたが、高知大学の西山先生の愛のある(?)訓練設定により、約1時間30分の訓練で70人超の患者役が押し寄せてくるというハードな訓練でした。しかしながら、実際災害が起こった場合には、これ以上の人数の患者さんが来る事を考えると大変有意義な訓練であったと感じています。



内視鏡センター 松崎 良子

南海トラフを震源とした巨大地震の発生に伴い多くの傷病者がいる想定で、会場の一角に仮設医療救護所を設営しました。私は赤十字救護班として日赤鳥取県支部や高知医療センター、あき総合病院、近森病院のDMATの方々と協力し、リーダー医師のもと救護活動を行いました。次々と運ばれてくる傷病者役と避難者役の総勢90名の医学生を相手に、トリアージ、応急処置、医療機関への後方搬送、救護所巡回など息をつく間もなく実践ながらの訓練となりました。今回は約1時間半の訓練でしたが、災害時はそこに居合わせた医療関係者や地域の方々と協力し、長期間にわたり傷病者や避難者を救護しなくてはなりません。訓練がいかに大事であるかという事と、今後は自身の居住地域の防災にも目を向け、日頃から連携しておかなければならぬと実感しました。



トリアージ研修に参加して感じたこと

8階西病棟 岡 弘晟



今年は年始に能登半島地震があり、4月には四国でも地震が発生しました。自然災害の発生によって、より普段からの防災意識や準備が大切であると考えさせられます。

私は今年度から防災ワーキングメンバーとして活動を始めました。今回は災害時により多くの被災者の方に医療を提供するためのトリアージ研修を受講しました。

トリアージでは、START法という方法を用いて30秒以内に患者をトリアージする必要があります。今回の研修では、紙に書かれた情報を見てトリアージするというものでしたがとても難しいと感じました。実際に切迫した状況下で意識状態・呼吸状態・循環動態を30秒以内に判断することの難しさは容易に想像できました。また、トリアージした後に状態が変化することもあるので、より瞬間的に判断する力が求められます。

災害時により多くの人に医療を提供し、命を守るためにも普段からの災害意識や対策を持ち、知識と技術、判断力の醸成が必要であると感じました。



令和6年度 高知県警と連携した情報セキュリティ研修

医療情報管理課 渡辺 崇史

6月27日(木)に「情報社会における情報セキュリティリスク」と題し、高知県警生活安全部サイバー犯罪対策課で従事されている先生を講師に迎え、情報セキュリティ研修を開催いたしました。

研修では病院組織全体の脅威となるサイバー攻撃を始め、職員個人の脅威となるSNSやWi-Fi利用時の注意など、実際の発生している事例からその危険性を紹介いただき、個人が取るべき対策、そして情報セキュリティ研修を繰り返し受講する重要性をご教示いただきました。

今後も情報セキュリティ事故を発生させないために、継続して研修や訓練を計画ていきたいと思います。



感染制御認定薬剤師のご紹介



感染制御認定薬剤師
松本 知也

感染制御認定薬剤師とは、感染症治療に求められる薬物療法に関する十分な知識、院内感染を防ぐために必要な知識や技術を持っている薬剤師が取得できる資格です。一般社団法人日本病院薬剤師会が実施している認定制度によって与えられる資格であり、令和5年10月時点で1,101名の薬剤師が認定されています。

感染制御認定薬剤師の主な役割の一つに、抗菌薬適正使用支援があります。感染症治療では、感染症の原因となっている細菌をやっつけるために抗菌薬を使用します。しかしながら、抗菌薬を適切に使用しないと感染症が治らなかったり、薬の副作用が出たり、薬が効きにくい薬剤耐性菌が生まれてしまったりする恐れがあります。それらを防ぐために、感染症治療に使用される薬の薬理作用や体内動態などの知識や、微生物や薬剤耐性菌などに関する知識を活かして抗菌薬が適正に使用されているか監視し、時には個々の患者さんの症状や状況に合った薬物療法を提案します。当院には医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の4職種からなる抗菌薬適正使用支援チーム(Antimicrobial Stewardship Team、AST)があり、感染制御認定薬剤師が中心となって活動しています。

す。お互いの専門知識を生かして連携しながら、病院内で適切な感染症治療が行われるよう支援を行っています。

また、感染制御チーム(Infection Control Team、ICT)にも所属しており、こちらも医師、看護師、臨床検査技師と連携しながら感染制御に関する様々な活動を行っています。ICTの主な役割は、院内感染の発生状況を把握して対策を行うこと、定期的に院内を見回りして感染対策の実施状況の把握や指導を行うことです。例えば、病棟スタッフが正しいタイミングでアルコール手指消毒を行っているかどうか、病棟の色々なところに設置されている手指消毒用アルコールの使用期限が切れていないかを確認しています。

近年は薬剤耐性菌による感染症の増加が世界的に問題になっており、抗菌薬適正使用支援の重要性は増しています。今後も院内や地域の感染制御に貢献できるよう研鑽を続けていきたいと思います。



汚物処理室の環境をチェック



アルコールの期限チェック

臨床輸血看護師の活動紹介

臨床輸血看護師 永橋 舞子（救命救急センター病棟）

臨床輸血看護師は安全な輸血を行う専門的な知識とスキルを持つ看護師を育成するために、日本輸血・細胞治療学会が2010年から導入した資格です。

輸血療法は、一定のリスクを伴うことから、正しく理解したうえで安全かつ適正に行なうことが求められます。患者様に最も近いところで、輸血に関与する看護師には正しい知識と的確な判断力が要求されます。

臨床輸血看護師が、医師や臨床検査技師と連携することで、輸血の安全性は飛躍的に向上することが期待されています。当院の臨床輸血看護師11名が中心となり、輸血療法委員会下部組織として、ワーキンググループを結成し、活動を行なっています。新人看護師だけではなく看護師全員を対象とした研修会の開催など教育的支援をはじめ、輸血に関するインシデントレポートの分析、輸血監査の実施、チェックリストやマニュアルの改訂も行っております。

日々チームで力を合わせ、安全な輸血を患者様に提供できるように活動しております。輸血に関する手順や疑問など、お気軽に相談してください！



輸血の実際についてのデモンストレーション



輸血手順の演習

放射線検査でのよくある質問？ Q & A



Q レントゲン検査を先週したけど、今回また検査しても大丈夫なの？

問題ありません。被ばく線量が100mSvを超えるなければ人体への影響は無いと言われています。放射線治療以外では100mSvを超える検査は基本的にありません。

検査例：胸部撮影正面 0.06mSv ・CT検査 5～30mSv・PET検査 2～20mSv
(mSvミリシーベルト：放射線による人体への影響を表す単位)

Q 赤ちゃんの股関節撮影に生殖腺防護はしなくていいの？

鉛防護は必要との見解が示されています。最新の装置では撮影による被ばく量は0.2mSv程度と非常に少なく、鉛で生殖腺をカバーすることにより骨盤全体の情報が欠損、また再撮影のリスクとデメリットが多くなります。ご家族が希望する場合は鉛防護を使用。



動きにより鉛防護がズレ再撮影

Q 妊娠しているけど放射線検査しても赤ちゃんに影響は無いの？

胎児（着床前期～出産）の放射線による影響は線量が100mGy以上の被ばくで起こります。胎児への100 mGy未満の線量では妊娠中絶の理由と考えるべきではありません。
妊婦検査例：腰椎X線撮影1.7mGy、腹部X線撮影 1.4mGy、骨盤部CT検査25mGy
(mGyミリグレイ：放射線を受けた人体が吸収するエネルギー量)

放射線科

CAFE CROSS

研修医一年目のご紹介

RESIDENT INFORMATION



とかじ
戸梶

ちあき
智耀 (徳島大学卒)

医師を志したきっかけは? 叔母が医師をしており、その親戚から医師になることを勧められ、医師という職業を意識し始めました。その後、お世話になっていた先生の様に患者さんに寄り添える医師になりたいと思うようになりました。

これが好き! 自然に触れたり、神社やお寺を巡るのが好きです。休みの日は川や山など自然を満喫できるところにいったり、神社やお寺を巡って御朱印をもらったりして楽しんでいます。最近は四万十川を屋形船で川下りしたのですが、マイナスイオンを全身に浴びることができ、すごくリフレッシュできました。今年は山に行って満天の星空を見てみたいと思っています。

私がスゴいです♪ すごいと自慢できることが全く思いつかないのですが、強いて言えば落ち込まないかもしれません。嫌なことや落ち込むことがあっても一度寝ると気分が切り替わっているので、自分の単純さに助かっています。(笑)

研修への意気込みをひとつ★ まだまだ分からないことだらけで日々、悪戦苦闘していますが精一杯努力していきたいと思っております。ご迷惑をお掛けすることばかりだと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



ともなが
友永 紫苑 (高知大学卒)

医師を志したきっかけは?

小さい頃から病院にお世話になることが多く、医師という職業に憧れを抱いたことが最初のきっかけです。

これが好き!

キャンプ、ドライブ、風景写真を撮りに行くことが趣味です。キャンプ場で作るご飯を考え、準備する段階から楽しんでいます。



私がスゴいです♪

大学時代はヨット部に所属しており、船舶免許を保有しています。海釣りの経験はないので機会があれば挑戦してみたいです。



研修への意気込みをひとつ★

自分はたすきかけプログラムで、2年目は高知大学で研修なので、1年で多くのことを吸収できるように気合入れて頑張ります!! 至らない点も多くご迷惑をお掛けする事があるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願いします。



防災 season

～当院の防災の取り組みや考え方を紹介します～

No. 9

検査部 山崎 浩史

断水時の、当院の節水対策に向けて

この度の能登半島地震では、被災地の断水が長期に渡り、石川県(ほぼ)全域の断水解消に5か月間を要しました。

当院は上水断水時、約3日分の水の備蓄がありますが、南海トラフ地震時も3日間を越えて断水が続く可能性があります。そのため、節水対策の前提として、改めて平時の具体的な水の使用量をチェック・概算し(平時の病院全体での水使用量は130～160t/日です)、トイレ、透析、栄養課、内視鏡洗浄、手術器具洗浄・滅菌、生化学検査等で比較的まとまった使用量があることを確認しました(栄養課は上水断水時は水を使用しない方針です)。

ちなみに、給水車は市町村のもので車両当たり容量2t、自衛隊で5tと、平時の使用量からはるかに少なく、また、当院の上水を担当する高知市は比較的早期に復旧が見込めるようですが、3日以内は厳しいと考えられます。

これらのことから、把握できた水使用量をもとに、発災時の節水について改めて検討しているところです。皆様ご協力のほど、どうぞよろしくお願ひ致します。

断水時の穴水町保健センター



1月半ばの穴水町保健センター内。断水だが、非常用給水袋が多量に届くようになっていた。



同時期の同施設内のトイレの手洗い場。
断水のため、ウォータータンクを横にして手洗い用としている。



呼吸器外科学会発表の報告

第一外科部長 吉田 光輝

この度、2024年5月31日に長野県軽井沢にて第41回日本呼吸器外科学会に当院の呼吸器外科、吉田光輝、松岡永、井崎富由美で参加して参りました。

松岡先生はミニオーラルプレゼンテーションに採択され、「当院における転移性肺腫瘍手術の検討」を発表し、吉田はパネルディスカッションにて、胸部外傷を考えるというセッションに採択され、「救急医療における血氣胸(肋骨骨折)と呼吸器外科参入の現状と課題」をプレゼンテーションさせていただきました。松岡先生の発表は、転移性肺腫瘍は手術により長期予後が望める症例があり、積極的に手術していくことも良い結果をもたらすという内容でした。

吉田の発表は、近年5年間の当院の胸部外傷の手術症例の実際をまとめ、呼吸器外科の介入の意義を提示しました。

全国の主要な大学や病院の発表の中で、当院の経験が報告できたことは非常に大きなことであると考えています。少しでも高知赤十字病院の印象を残せたのではないかと思っています。

軽井沢は皆が初めて行く場所で、交通手段に少し戸惑いましたが、避暑地の綺麗な場所で、いい経験が出来ました。学会では日本の一線で活躍している先生方のお話も聞くことができ、非常に勉強になりました。

高知赤十字から全国へ、当院での経験を発表することはこれからこの病院にとって大切な取り組みであると考えており、これからも当院での経験を積極的にいろんな場所で発表させていただき、思いを伝えていけたらと考えています。



松岡先生のプレゼンテーション



軽井沢駅

日本医療マネジメント学会学術総会に参加して

手術室看護師長 湯田平 千春
手術室看護係長 島巻 真美



湯田平師長



島巻係長

6月21日(金)、22日(土)に福岡県で開催された「日本医療マネジメント学会学術総会」に参加し、【看護部(手術室)の共同購入における経営コストの削減】について発表してきました。

当院はNHA(共同購入組織)に加盟して3年ではありますが、NHAに加盟している全国赤十字施設中、汎用医療材料分野で1位!、手術室関連分野で2位!の実績を出しています。選定が難しい手術材料もありますが、医師へのヒアリングを行い、できるだけ現行に近いものを選定し、切り替えをしています。切り替え成功の力は、関わる職種の方達と

目標を共有し、積極的に検討の場を設け、タイムリーな評価をし、連携を図っていくことだと思いました。

今回の学会発表で座長をしてくださった岡山の事務部長さんや、同じランチョンセミナーで発表した北海道の臨床工学技士さんとお話しすることもでき、緊張しましたが楽しい学会になりました。福岡のおいしい物も食べてきました。



湯田平師長

島巻係長



「すずらんの花、しおり」の贈呈セレモニーが開催されました

令和6年5月21日、今年も「すずらんの花、しおり」の贈呈セレモニーが開催されました。

すずらんの花としおりは、ANAグループの皆さんのご厚意により、全国の赤十字病院に届けられています。

今回は、5階西病棟看護師 松田 友希さんと6東病棟看護師



吉岡 李真さんに協力いただき、入院患者さんにも直接お渡しすることができました。

ANAグループの皆さん、「すずらんの香りと共に幸せがたくさん舞い込みますように」という想いは、手にした方にしっかりと届いていることでしょう。



入院されている患者様やご家族様にすずらんを届けていただき、笑顔を見ることができました。



いたいたいたすずらんに負けないよう、患者様に癒やしをご提供できるよう頑張っていきます。



医療公開講座報告[7月]

高知赤十字病院は高知新聞企業と共に7月13日(土)、県民文化ホールにて今年度1回目の医療公開講座を開催しました。

46名のご参加があり、形成外科柏木医師から「形成外科のしごと」、内科有井医師から「元気で長生き糖尿病」と、扱っている疾患や手術の方法、日常生活で気をつけることなどについてお話をさせていただきました。

アンケートでも技術のすごさを感じた、乳房再建や眼瞼下垂も形成外科が対応していることがわかった、糖尿病が様々な健康に影響があるとわかりやすく楽しく学べた、直接専門医の話が聴けて勉強になった、また参加したいと感想をいただいています。多くの方のご参加ありがとうございました。



形成外科 柏木医師



内科 有井医師



高知赤十字病院
ホームページ

<https://www.kochi-med.jrc.or.jp/>



高知赤十字病院
Facebook

<https://www.facebook.com/krch.kouhou/>



よろしければ
フォロワー登録
お願いします



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。

本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

